『臨床教育人間学』執筆要項

平成11年10月28日制定

1．本誌は、京都大学大学院教育学研究科臨床教育学専攻臨床教育学講座の紀要である。

2．本誌に執筆するのは、原則として、上記講座に所属する者とする。

3．論文の内容は未公刊のものに限る。

4．論文は、上記講座の教官が審査し、その採否、掲載順などを決定する。論文内容によって他の専門家に審査を依頼することがある。

5．原稿は横書きで、原則として常用漢字・新かなづかいを用い、数字は算用数字を用いること。

6．外国の人名、地名等の固有名詞は、原則として原語を用いる。その他の外国語はなるべく訳語を用いること。外国語を用いる場合は、初出の際訳語に引き続いて（　　）をつけ示すものとする。

7．註および引用文献は、論文末に一括して掲げる。

8．註および引用文献の記述形式は次のいずれかとする。

［A］

（論文の場合）著者名、論文名、雑誌名、巻、号、年、頁の順。

（例）皇紀夫「『きまりの教育』の臨床教育学的考察」『臨床教育人間学』第1号、1999、7頁。

（単行本の場合）著者名、書名、発行所、年、頁の順。

（例）皇紀夫・矢野智司編『日本の教育人間学』玉川大学出版会、1999、23頁。

［B］

（論文の場合）著者名、年、論文名、雑誌名、巻、号、頁の順。

（例）皆藤章（1998）：風景構成法における風景の中の自己位置．心理臨床研究、8、3、66-74.

（単行本の場合）著者名、年、書名、発行所、頁の順。編者と担当執筆者の異なる単行本の場合は該当執筆者を筆頭にあげ、以下、年、論文、編者名、書名、発行所、頁の順。

（例）皆藤章（1998）：生きる心理療法と教育 ── 臨床教育学の視座から．誠信書房．123.

（例）皆藤章（1996）：心理療法と風景構成法．山中康裕編、風景構成法その後の発展．岩崎学術出版社．50.

9．註は本文中の該当個所に、上付文字で（1）、（2）……と指示し、論文末にまとめて記

載する。

10. 引用文献は、本文中では、著者名（出版年）、あるいは（著者名、出版年）として常時する。同一著者の同一年の文献については、ａ、ｂ、ｃ……をつける。

（例）「皇紀夫（1998a）が指摘するように……」

（例）……との指摘がなされている（矢野、1999）。